



相談支援つうしん



県立湘南支援学校
 支援連携グループ
 相談支援班 第7号
 令和6年12月24日(火)

富士も白く輝き、空気もだいぶ冷えてきました。サザンカの花が咲き誇り冬らしくなってまいりました。いよいよ冬本番ですね。

【今回のテーマ・・・行動上の問題について part 2 注目について】

今回は、「行動上の問題について(不適切行動とも呼ばれます)」の話題として「要求」のお話をしました。今回は、二つ目の「注目」についてお話しさせていただきます。不適切行動は、うまく自分の気持ちを言葉等でうまく伝えることや適切に振る舞うことが未学習の状況と、ある状況に依存して誤った形で学習してしまった誤学習の場面で起きてきます。

4つの行動の機能

- ① 何か欲しいと感じた・・・要求
- ② こちらを見て欲しい・・・注目
- ③ もう嫌だ・逃げたい・・・逃避
- ④ 自分の身体に刺激を入れる・・・自己刺激



○小学部のころ・・・以前担任をしていた時の話です。

小学部1年生のAさんは、登校後、教室で朝の支度をしていました。教員が見守りをしていると、ニコニコしながら窓から外に向けて給食袋や歯磨きセットを投げっていました。「Aさんだめだよ(本人の行動に対して注目をしている状況)」と教員が声をかけると、うれしそうに笑っています。(注目をしてもらえてうれしい)

Aさんは、就学前の学びの場で良いことをしても「すごいね！よくできたね！」と大人に適切に評価されませんでした。(注目されない状況)

逆に、「靴を投げて床にひっくり返る」といった、大人が困る行動ややって欲しくない行動をした時だけ、「何してるの！ダメでしょう！」と大人が関わっていたので、「不適切な行動をすれば大人が来てくれる」という関わり方を学んでいました。(これが誤学習です)

そんな背景があったので、大人が関わり方を変え、適切な方法での注目を増やし、不適切な注目行動を減らしていました。その方法は次のとおりです。



- ① まずは環境の調整をします。

Aさんは、窓から外に向かって物を投げていたのですが、物が投げられないように窓のカギを閉めました。そして、朝の支度の手順書を用意して、教員と一緒にその使用方法を確認しました。

- ② 次に、振る舞い方の練習をします。

朝の支度リストみながら、朝の支度を一つすることに教員は「すご～い！よくできたね」と拍手をしました。Aさんもうれしそうに拍手をしました。すべてできたら先生とハグしました。

- ③ さらに、コミュニケーションの練習をします。

注目してほしい時は、大人の肩をトントンと叩くことを教えました。

その後大人に絵カードを渡して、要求が出せるようにしました。Aさんはよく「くすぐる」のカードを渡してくれたので、私はAさんが涙を出して転げまわるほどくすぐっていました。(笑)

たくさんくすぐって、とことん遊んだこともあり結果としてAさんは大きく変わりました。

《ポイント》

ここでのポイントは、「状況依存」です。状況依存とは「人・場所・活動に対して、特定の反応が出ること」です。例えば、混乱したときに「構造化（この場所ではこれをする）」をすることで、落ち着いた行動ができるように仕向けていくのは、状況依存を逆手にとった方法です。

例えばご家庭で、お母さんとの間でトラブルになったらお父さんが対応してみる。（人への依存）

リビングで大変な状況であれば、トイレに誘って気分を変える。（場所への依存）

人も場所も変えられない時は活動を変える。（活動への依存）何時間もタブレットをする状況から、キャベツの葉っぱを見せて手でちぎるよう促し、ハムをハサミで切って焼きそばづくりに誘うといった具合です。

不適切な活動ややって欲しくない行動を変えるためには状況依存を逆手にとることが大切です。



【ちょっと休憩】 「お餅が食べたい」の巻

久しぶりに妹と一緒に母に会いに行きました。



会うなり早速「双子ちゃんの写真持ってきた」と催促する母に、ちょっと戸惑いつつも、ひ孫の動画を見せて様子を解説すると嬉しそうな様子。巡回に来られた看護師さんにも、ひ孫の動画を熱心に説明していました。お正月に双子ちゃんに会えることを楽しみにしているようです。（笑）

その後、お正月に帰宅したら「何を食べるか」という話になりました。すぐに出てきたのは「お餅を食べたい」とのことでした。昨年も、お餅の話が出たので、介護食用の柔らかいお餅を準備しましたが「全然美味しくない!!」と言って食べませんでした。（せっかく取り寄せしたのに…トホホ）結局、普通のお餅を2cm角ほどに切った焼き餅を雑煮にいれました。横で見ながらいつ詰まらせるかと夫と二人でドキドキしながら見ていました。今年は、「もし詰まらせたらどうするか」と夫と相談中です。餅吸引機を購入する方が良いのではないかと案が出ています。きっと全国で同じ悩みを抱えて「どうしたものか？」と考えている60代の子も世代も多いのではないのでしょうか。やれやれ。。

なぜ、餅がのどに詰まるのか？原因は・・・「加齢に伴う嚥下機能の低下」というのが一番の原因になります。《資料提供先：福井大学医学部附属病院救急救命科科長 総合診療部教授 林寛之医師より》

- 1 実際に「嚙もう！」と思っても歯が少ないためちゃんと嚙めない
- 2 唾液が適量と出ないので飲み込むのが下手になる
- 3 "ゴックン"と喉を持ち上げる力が弱くなる
- 4 詰まりそうなときにする咳がすぐ下手になる



この4つのしくみで餅が詰まったときにうまく出せなくなっています。

肢体不自由や染色体異常のハンディがある子どもたちだけでなく、知的にハンディがある子どもたちにも、食事場面での配慮は不可欠です。人は、小さい時から練習しながら咀嚼の仕方を身に付けていきます。しかし、筋力の低下により飲み込む力が弱くなることもあり、よく嚙んで飲み込むことが難しくなると、丸飲みしやすくなります。丸飲みを続けると、喉の筋肉が働かなくなるのでさらに筋力が低下します。結果、気管に入りやすく、気管に入ったものを咳で出そうとしますが、筋力の衰えて咳自体ができなくなることもあります。安心して食事を摂取するためにも、よく嚙むことと共に摂取しやすい食事の形態も検討する必要があります。

母だけではなく、私たち夫婦用にも餅吸引機を購入しようかと考え中です。（笑）

文責 橋爪

☆☆☆いよいよ明日からは冬休みですが、今年も大変お世話になりました。

皆様、暖かくして（特に首回り）たっぷり睡眠をとり（7時間位）バランスの良い食事を心がけてご自愛ください。どうぞよいお年をお迎えください。☆☆☆